

第 199 回 競技委員会 議事録

1. 日 時 : 2009 年 4 月 1 日 (水) 18 時 00 分 ~ 20 時 40 分
2. 会 場 : 連盟本部事務局
3. 出席委員 : 清水康裕委員長、平田眞、寺本直志、古田一雄、斉藤千鶴乃、田中陵華、仲村篤志
以下委任状 : 林伸之、佐々部君敏、山菅昭夫、西田奈津子
オブザーバー : 大政哲人
委員総数 11、定足数 8、出席 11 (内委任状 4) で成立。
4. 議事の経過及び結果 : 清水康裕委員長を議長に議事を逐一審議した。

第 1 号 議案 茨城県知事杯で過去のボードが配られた件に関して

2009 年 3 月 7 日の茨城県知事杯第 1 セッションに於いて、2009 年 2 月 21 日の木村六郎杯第 1 セッションと同一の組み込みボードが使用された。当該競技会は第 1 セッション第 4 ラウンドに於いて参加者から同一ハンドの指摘があり、別のボードセットを使用して大過なく開催された。競技事業部長名での、当該競技会の参加者と主催者への謝罪措置、及び連盟会報での謝罪記事について報告がされた。

改善策として以下の方式が事務局より提案され、承認された。

1. 作業工程の減少とミス介在可能性の減少のため、従来の HAND.EXE によるディールを廃止して、JTOS 付属の HANDEDIT.EXE によるディールとプリントアウト及びデュプリメイト用ファイル (DLM ファイル) への変換を行う。
2. DLM ファイルの第 1 番ボードの内容は暗号化されたテキストであるため、これを管理簿に記載する。管理簿で過去に同じハンドが使用されていないことを確認する。
3. 管理簿を複数の事務局員で再確認する。

第 2 号 議案 2009 JCBL HANDBOOK 関連

1. コンベンションリスト補足 8)デュアル・メッセージ・シグナルの項目に以下を追加する。
(オブピマス・シフト・プリンシプル Obvious shift principle は「デュアル・メッセージ・シグナル」ではない。)
2. 用語集に以下を追加する。
オブピマス・シフト・プリンシプル (Obvious shift principle)
第 1 トリックにサードハンドがアティチュード・シグナルを出す状況で、「特定のスーツ (通常はダミーの最も弱いスーツ)」へのシフトを示唆するときにはディスカレッジ (ノンカモン) を、そうでなければエンカレッジ (カモン) を出すシグナルの約束。「特定のスーツ」の決め方はペア間の約束による。
3. マスター位資格のレッドポイント条件について
第 155 回理事会 (2009 年 3 月 27 日) に於いて競技委員会での審議を求められた。
レッドポイント導入 (1974 年 1 月) 以前に獲得されたマスターポイントの取り扱いには以下の事例がある。
第 44 回理事会 (1994 年 3 月 23 日) 決議「1973 年 12 月末の保有マスターポイントの 20%を仮レッドポイントとみなして加算する」。この決議に基づき、第 47 回理事会 (1994 年 7 月 20 日) に於いてシニアライフマスター 19 名とライフマスター 6 名が資格承認を受けた。
以上の前例を踏襲して、HAND BOOK マスターポイント 4.マスター位の項目に以下を追加する。
「1973 年以前の MP は 20%をみなし RP としてマスター位を認定いたします。該当される方は事務局にご連絡下さい。」
4. 連盟主催競技会の項目で「プレイ中の携帯電話の使用」の表記を「セッション中の通信可能な電子機器の使用」に改める。当該項目で上記以外の「携帯電話」の表記は「携帯電話等」に改める。

第 3 号 議案 ストラティファイド戦のコンベンションリスト制限について

JCBL HANDBOOK、コンベンションリストの適用について、3 番の項目、リスト F の次の行に「ストラティファイド戦は最上位ストラットの MP 制限に基づく。」を追加する。

第 4 号議案 アラートカードを片付けるタイミングについて
現在のアラートに関する記載で問題が無いと合意した。

第 5 号議案 スイス戦の第 1 ラウンドの対戦について

- ・大船 BC 主催のスイスチーム競技会に於いて、第 1 ラウンドを SP 順位 1 位と 2 位で対戦させる方式が採用されている。この是非について吉田勝氏から問題が提起された。
- ・以下が競技委員会の、スイス戦 第 1 ラウンドと第 2 ラウンドの対戦の決め方に関する見解。
 1. 対戦が恣意的に変更されていないで、且つ、常に同じ方式が採用されているならば、大船 BC の方式が著しく公平を欠いているとは言えない。(大船 BC は近年は常に同じ方式を採用している。)
 2. JCBL では、SP 上位と SP 下位の 2 グループに分けて対戦させて各々の対戦の SP 実力差を均等にする方式や、当日受付競技会で SP に依らずランダムに対戦する方式などが採用されている。第 1 ラウンドと第 2 ラウンドの対戦の決め方にはそれぞれ長所と短所がある。目下のところ、唯一の公平な方式が有るわけでない。
 3. イーブンチャンス戦ではいずれの主催者も第 1 ラウンドで、SP 1 位のペアを含むチームと 2 位のペアを含むチームを対戦させている。連盟方式の採用を強制すべきか否かは慎重な意見が出た。すなわち、試合形式によって初期の対戦の決め方のバリエーションは許容される。
 4. 現在 JCBL が採用している方法はそれぞれの競技会で試合形式に見合った公平性を備えていることが再確認された。連盟主催競技会は大船 BC よりも優れた方式を採用していることが認識された。
- ・大船 BC には上記の競技委員会の見解を伝えることで合意した。

第 6 号議案 その他議案

1. 渡辺杯試合要項の「ピックアップの項目」を訂正、「ボードに関する注意事項」を追加する。
2. IMP 小委員会の開催と、次回競技委員会での報告が要請された。

次回競技委員会は 6 月 3 日 (水) 18 時 00 分からの開催を予定する。

以 上